

人のためには自分のため

中沢中学校

一年

田中

希美

イギリスのBBC放送の「盲目の人が困っ

ていたら？」という実験番組についてこの記事

を読んだ。視覚障がい者の人の生活上の困難

を非障がい者の人にも知ってもらうという企

画だ。

その内容は、視覚障がい者の人が横断歩道

を渡れずに困っていた時に、ロンドン市民が

助けしてくれるかというものだ。しかし助

けに出る市民は現れず、困っている視覚障がい

者の人に一番最初に声をかけて助けたのは

日本の留学生だったそう。更に別の場所では

視覚障がい者が横断歩道の途中で信号が変

わってしまうというより危険なケースにして

実験を続けた。すると、またも助けたのは日

本人であつたという。手助けした人は、自転

車に乗っていたのだが、すぐに自転車から降

りて実験者にかけ寄り、信号が変わって危険

な状況です、お手伝いしてもよろしいですか？」と尋ねて、危険な状況から助け出したという。

私はこの記事を読んで、とても誇らしい気持ちになった。と同時に自分は同じ日本人として、そのような行動が出来るのかという気持ちにもなった。

もし同じような状況になった時、きっと私は助けることか出来ないと思った。なぜなら私には、助けるスキル（助けた経験）がたり

ないからだ。おまけにほんの少し勇気がたりない。それにどんな助けが必要なのか、分からない。困っている人かいたらず助けようとする気持ちはあるのだが、そこから行動に移すまでの一歩がなかなか出ない。

私の周りで、進んで困っている人を助けたいのは母だ。どういう気持ちで人助けをしているか聞いてみた。人のためにした事は必ず自分もしくは自分の大切な人に、巡り巡って帰ってくる、と信じている」と言うのだ。

しかし母は必ずしも上手く助けられてい
るわけではないというのだ。

電車でお年寄りに席をゆずろうとしても、
「次なので」と断られたり、目の見えな
い人
に後ろから声をかけて敬罵かれてしま
たり、
横断歩道の途中で止まっ
てしま
ったおばあ
さんの背中を押して歩道まで進めよう
としたら
「痛い」と言われたり、失敗だらけだ
という。
でも知らない事や分からない事だ
から、試
行
錯誤をして覚えていくしかないのだ
と
言う。

例えば、ベビーカーを押しているお母さん
の苦労は、母は経験しているの
でよく分かる
そう
だ。
「助けしてほしい」と言われなくても
どう
も手助けした
ら相手か助かるのか想像か
つ
く
と
言
う。
しかし、障
か
い
の
あ
る
方
や
高
齢
の
方
は、
ど
う
い
う
助
け
か
い
の
か、
ベ
ス
ト
ア
ン
サ
ー
か
分
か
ら
な
い
そ
う
だ。
だ
か
ら、
試
し
て
み
る
し
か
な
い
と
い
う。
で
き
れ
ば
困
っ
て
い
る
人
か
気
軽
に
声
を
か
け
ら
れ
る
世
の
中
に
な
る
と
い
い
と
言
っ
て
い
た。

以前、母と歩いていたら手押し車を引いた
おい、さんに声をかけられた。おい、さんは
自動販売機で飲み物を買いたいから、背が届か
なくて買えないのでかわりに買ってほしいと
言うのだ。母は嬉しそうにお手伝いをしてい
た。

このおい、さんのように自ら、助けを要請
することはとても有意義だ。援助を必要とす
る人はもっと、こういう助けが必要かを発
信した方がいい。その方が助けやすいのだ。

助けを求める事を遠慮しないでほしい。手助
け出来る事は喜びでもあるから。

私は、人のためにした事は、巡り巡って必
ず自分もしくは自分の大切な人に帰ってくる
という母の思いを心に刻み、困っている人を
勇気を出して助けたい。失敗もスキルアップ
につながると思っていて。

助け合いで世界中にもっと幸せな笑顔の連
鎖が起きると思いたい。